

## 編集後記

昭和50年、1975、そして開学10周年、いかにも歯切れがよくて好い。このような意義ある年に編集を仰せつかるのは幸運である。10年間の揺籃期に本学そして本誌も体力づくりと情操の蓄積とを模索のなかにも何等かの方向づけとして得ている。

石油ショックもインフレーションも奔流の勢いを沈め、小康を得た感あり。各国足並そろえて公定歩合を引下げ景気浮揚に乗り出してきた。変動相場制のもとでの資本主義諸国の運命共同体としての一側面を覗わせる。

しかし、環境汚染、人口爆発、資源食糧問題といった数々のデーモンが資本主義国と社会主義国とを問わず、人類世界を脅かしている。1960～70年代の高度の経済成長を支えた技術の長足の進歩の処産である。かつてマルクスは共産党宣言（1848年）においてブルジョア的生産力を支える急速な技術発展の集積の蔭に胎動する労働者による階級闘争というデーモンを叫んだ。それにも拘らず、資本主義経済は軌道修正を重ねながら、さらに自己増殖を続けている。

いまや経済学の課題に対する反省が頻りに叫ばれている。長いこと、そうとしておいた価値論の復帰はその最も素朴な形である。古き経済学徒はかつての E. von Böhm-Bawerk と R. Hilferding との論争を思い出すであろう。

Böhm にかけてこちらはいま一人の Herr Karl Böhm。南独訛りの素朴さは時として嵐のごとく、また春の陽光のごとく。ウィーン・フィルを率いる演奏はいよいよ厳格、誠実、よくその水準の高さを堪能させて呉れた。科学する心は芸術に通う崇高なる真実を憧憬するものであることを憶う。

ご寄稿いただいた諸賢、ありがとうございました。

(Y記)

流通経済論集 Vol. 10, No. 1 (通巻第34号)

昭和50年7月15日発行

非売品

編集兼発行所

流通経済大学学術研究会  
茨城県竜ヶ崎市字平畑120番地  
電話 竜ヶ崎 (02976-2) 3251 (代表)  
財団法人 東京大学出版会  
東京都文京区本郷7丁目3番地の1 東大構内  
電話 東京 (03-811) 4281

製作所